

2017年11月10日

立教大学国際学術研究交流制度  
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	加藤 磨珠枝
受入学部・研究科・研究所		キリスト教学研究科
招へい 研究員	所属・職	Full Professor, Department of Cultures and Civilizations, The University of Verona 協定の有無：無      所在国：イタリア
	氏名	Tiziana Franco
招へい期間		2018年10月6日～2018年10月13日（8日間）
研究経費		342,980円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年10月6日	来日。国際推進化機構のスタッフと共に学内ツアー、今後の立教・ヴェローナ大学間協定について打ち合わせ。
〃 10月8日	公開講演会「ヨーロッパ初期中世美術の再考—モニュメンタル絵画の諸問題」を太刀川記念館ホールにて開催。参加者約80名。
〃 10月12日	早稲田大学文学部にてイタリア・ロマネスク美術について研究討議。参加者約10名。
〃 10月13日	出国。

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

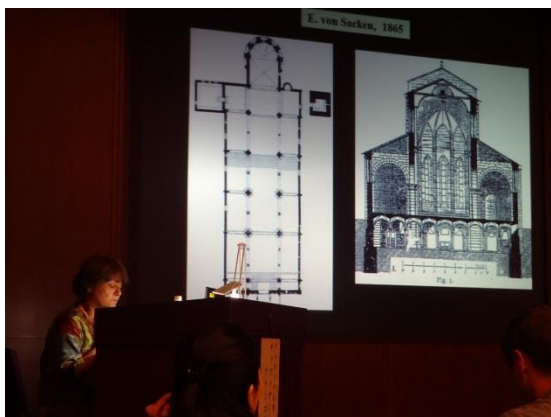
1週間という短い滞在期間ではあったが、研究・国際交流に関して充実した成果をあげることができた。ティツィアーナ・フランコ教授が所属するヴェローナ大学と本学では、現在大学間協定の計画が進行中であり、今回の来日に合わせて本学の国際化推進機構の関係者との会合も設けられ、今後の協定実現にむけてより具体的な話し合いと親交がはかられた。

10月8日に開催された公開講演会では「ヴェローナの初期中世絵画」を中心に、近年の考古学的発見にもとづいた実証的成果と教会堂壁画の保存修復についての現状が報告され、イタリア美術史研究の最先端について報告がなされた。そこにはフランコ教授が手がけた壁画修復プロジェクトの映像資料も含まれ、現在作品が保存されているヴェローナ壁画美術館の文化財保存の試みについても紹介された。

参加者の中には、学内の学生、大学院生、教員はもちろんのこと、一般の美術愛好家の姿も見られたが、国内で紹介される機会の少ない西洋初期中世の教会堂装飾をテーマとしたものであったことから専門分野の研究者の関心も集め、北は北海道、南は関西方面から大学関係者が参加した。こうした多様な参加者とともになされた活発な議論によって、豊かな学術交流の場が実現し、参加者から好評を博した。

講演会後の懇親会にも多くの学生、院生、研究者が参加し、友好的な雰囲気の中、フランコ先生を囲んで専門的な研究内容はもちろん、イタリア研究機関における研究の現状、留学にむけたアドバイスなど、多岐にわたる話題で盛り上がった。

#### 【太刀川記念館での講演会および懇親会の様子】



10月12日に早稲田大学にて本学研究者も交えて行なわれた「ヴェローナ・ロマネスク美術」研究会では、院生中心のより閉じられた環境で、気軽な美術史討論が行なわれた。

以上のような充実した内容によって、今回の招聘は各人にとって有意義な成果をもたらした。また今後の共同研究の可能性についても話しあわれ、近い将来にさらに豊かな実を結ぶことも期待される。